

聖日礼拝説教要旨 【2012年9月 23日】

「神に満たされるように」

詩 篇
エペソ人への手紙

第24篇1節～6節
第3章14節～21節

説 教 岡村 恒牧師

私たちの地上の旅は神によって満たされることを喜ぶ旅だ。もうあなたは満たされ、あなたから満ち溢れている。日本基督教団信仰告白で私たちは全知全能の神を信じると告白しました。主イエスによって、神と無関係であった私たちがキリストの救いの約束を明らかに聞かされ、それを信じて罪を赦され、神の国を継ぐ者とされた福音は語ります。

「だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない。」(ルカによる福音書 18章17節) 私たちに、こどもの様に父なる神の懐に飛び込んで本当に必要な物を求めたら良いと言われたのです。「こういうわけで、わたしはひざをかかめて、天上にあり地上にあって「父」と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る。」(エペソ人への手紙 3章14～15節)

父が、あなたがたの内なる人を強くして下さるように。キリストによる愛の広さ、長さ、高さ、深さを理解させて下さるように。キリストに満ち満ちている豊かさを持って満たして下さるように。いくつかの言葉が重ねられながら祈られています。これらは1つのこと、私たちに知りえないことが解るようになるという話です。神は私たちの理解を遥かに超えた仕方です。神は私たちに満ちして下さる。これが聖書の約束です。

私たちは神を小さく捉えるので多くの偶像を生み出します。当時、エペソの人々が接してきた神々は皆そうでした。能力や勢力範囲の限定された神々を想像しました。しかし聖書は全知全能の神、天地の造り主である神がおられ、この方だけが真の神だと宣言します。

神が介入して力を発揮して下さらなければ私たちの誰1人として、自分の内側に本当の力を持って生きることなどできないのです。ですから神ご自身が、私たちの魂の奥底に神と結びつく確かな絆をお創り下さり、そこに主イエスを住まわせて下さると言うのです。「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイによる福音書 28章20節) 洗礼を受けた者には約束の賜物として聖霊が注ぎ入れられると聖書は約束します。代々のキリスト教会はこの約束を信じ、私たちも信じています。

多くの方が聖書に自分の人生の拠り所を求めて、聖書の世界を徘徊します。人生を多少豊かにする良

い言葉や、他人との関係を新しくしてくれるアドバイスや、人生に彩りを添える "HOW TO"、物の知識を手に入れようとするなら、聖書の世界はただの通過点になってしまいます。しかし全知全能の神が力を発揮して下さる時、私たちは主イエスの約束の言葉に根を張って生きるようになります。それが信仰を持って生きるということです。

書物を読み、思索を深め、語り合い、研究をしても神の全体像を知ることはできません。神が神だからです。しかし、驚くべきことにキリストの愛に土台を据えられて歩んで行くとき、神の愛の広さ、長さ、高さ、深さを理解できるようになると聖書は語ります。

十字架を見るたびに真実なるお方の愛に触れる。キリストの愛は人知を遥かに超えています。罪人を滅ぼすことなどたわいもないお方が、私たち1人1人を深く愛し、神の子として生かすためにひとり子イエス・キリストを世に送って下さいました。赦されざるものを赦す神の愛は、私たちの思いを超えています。神はキリストを通して、聖霊の力によって私たちに信じさせ、受け入れさせることができるお方です。神の力が私たちに既に働いており、働き続け、これからも働くのだと御言葉は宣言します。

本来、受けとる資格のない者の前に、願う先から神の愛が用意され差し出されています。神がそれを私に与えて下さるならそれを受けたい、そう願い心を開く時、神の力が魂をとらえて下さいます。神の愛が、私たち1人1人の内に働きかけ、私たちの人生全体を創り変えてしまうのです。

私たちが神の赦しの約束を実際に手で触れ、味わう約束として受け取ることができるように、主は聖餐の食卓を制定されました。やがて終わりの日、全てが新しくされ、神が、真の神であることがはっきり分かります。その時そこに、神の国の食卓があります。地上の旅の間、繰り返し私たちが囲んだ食卓はこれだったのだと振り返って知るようになります。聖餐の食卓において、具体的に主イエスの命を味わう体験をします。聖書の約束全体が、本当の命だけが満ち溢れる終わりの日を指さしています。その日まで私たちは、神が満たして下さるものを受け止め続けながら神を讃美して歩み続けければ良いのです。

(記 説教要約奉仕者)